

○議長（石橋英和君） 順番10、5番 森下君。

〔5番（森下伸吾君）登壇〕

○5番（森下伸吾君） ただ今議長のお許しをいただきましたので、通告に従い一般質問を行わせていただきます。

今回の一般質問1項目めとしまして、スポーツ合宿、大会の誘致についてお聞きいたします。

近年、まちおこしのコンテンツの一つとして、マラソンなど市民参加型スポーツイベントや観戦型スポーツイベントの開催、あるいはスポーツ合宿、キャンプ誘致などを実施することで生まれる経済波及効果に、地域が注目しています。

本市でも、橋本マラソンなどスポーツイベントや近畿大会など大きな大会が行われています。さらに、本市の充実したスポーツ施設を利用して、大阪府の高校や大学のクラブ合宿が行われており、宿泊施設などに経済効果をもたらしています。

また、2015年には紀の国わかやま国体が行われ、本市へ県内外から多くの選手や観客が訪れることになっております。

国レベルにおいて、スポーツ基本法が2011年6月に制定され、観光庁がスポーツ観光推進室を設置するなど、スポーツを取り巻く新しい動きが現れています。

これからの地域活性化に、スポーツと観光が果たす役割は大きく、その両者が融合したスポーツツーリズムの一層の推進が図られることが期待されています。

本市においても、地方公共団体と各種団体間で連携・協働し、スポーツ合宿、大会の誘致を観光まちづくりの一環として政策に位置

づけ、取り組むべきだと考え、以下の質問をします。

1、昨年まで本市で合宿を行ったスポーツクラブはどれだけですか。

2、当市の施設をさらにアピールできるパンフレットやホームページの充実を考えていますか。

3、全国へスポーツ合宿や大会の誘致を図っていく考えはありますか。

次に、2項目めになります。史跡飛び越え石に駐車場などの周辺整備についてお尋ねいたします。

古来万葉人が紀伊の国への往還の際、落合川にある石をまたいで県境を越えたといわれる飛び越え石は、市内だけでなく県外からも多くの観光客が訪れる有名な史跡です。さらに、この周辺には、隅田八幡神社や万葉の歌碑、落合磨崖仏など歴史的に貴重な史跡が集まっています。

しかし、県外からバスで訪れたくても、専用の駐車場がないため、訪問することを諦める方もおり、せっかくの観光資源を生かし切れていないのが現状です。

橋本市を全国に、海外に売り出すためにも今後観光地の整備、特に飛び越え石の整備を市としてどのように検討しているのかお尋ねいたします。

次に、3項目めになります。歳入確保であるふるさと納税の取り組みについてお尋ねいたします。

少子化により死亡者数が出生者数を上回る自然減と、転出が転入を上回る社会減により人口減少が税収の減少につながっていることは、本市にとっても重大な課題の一つです。

平木新市長として、歳入確保の点から、ふるさと納税をどのように考え、どのように取り組まれるのかご見解を伺います。

以上のことをお聞きいたしまして、私の第1回目の質問といたします。

○議長（石橋英和君） 5番 森下君の質問項目1、スポーツ合宿や大会の誘致に関する質問に対する答弁を求めます。

教育次長。

〔教育次長（坂本安弘君）登壇〕

○教育次長（坂本安弘君） まずはじめに、スポーツ合宿、大会の誘致に関するご質問にお答えします。

橋本市運動公園多目的グラウンド、テニスコート、プールにおける合宿は、平成23年度は7団体251人、平成24年度は10団体439人、平成25年度は14団体770人で、2日間から5日間の日程での利用がありました。使用団体については、主に京阪神及び県内の中学校、高校、大学のクラブとなっています。

次に、県立橋本体育館においては、平成23年度は8団体1,226人、平成24年度は6団体1,133人、平成25年度は6団体1,196人で、2日間から7日間の日程での利用がありました。使用団体については、県内の中学校、高校のクラブとなっています。

次に、パンフレットやホームページの充実についてのご質問ですが、来年には紀の国わかやま国体も開催されることから、本市のスポーツ施設をアピールできるよう、また国体終了後も多くの人に橋本市に来ていただけるようホームページなどの刷新を前向きに検討します。

最後に、全国へのスポーツ合宿や大会の誘致については、本年3月にオープンしたホテルルートイン橋本も含め、宿泊施設も充実してきていますので、この点を十分アピールし積極的に誘致活動を展開していきたいと考え

ています。

しかし、合宿や大会の誘致をすることで利用数が増加し、収益も必然的に増えることとなりますが、合宿や大会は休日を利用して行われることが多くあり、市内にも多数あるスポーツクラブ等の施設の使用が制限される場合も十分予想されます。

したがって、市民のスポーツ力や体力の向上、健康づくりなどの観点から見ますとある程度の調整も必要と考えられますので、ご理解のほどよろしくお願いします。

○議長（石橋英和君） 5番 森下君、再質問ありますか。

5番 森下君。

○5番（森下伸吾君） ありがとうございます。

それでは、再質問をさせていただきたいと思えます。

スポーツ合宿、大会についてですが、私も平成23年9月の定例会一般質問でも、同じようにスポーツ合宿について質問をさせていただいたことがあるんですが、当時の教育次長のご答弁では、宿泊施設が整備されれば、関係団体とも協力して、合宿や大会の誘致に取り組んでまいりたいと考えていますということでありました。

現在、ご存じのようにルートインも開業しましたし、紀伊見荘も再開したということもありまして、宿泊施設も充実してきました。さらには、京奈和道も大分改善してきましたし、きのう、国道371号バイパスも橋本側は開通をいたしました。ですんで、交通の便、京阪神からの利便性のよさという意味では、この橋本の地というのはすごくポテンシャルが高いんじゃないかと、合宿するにはいい土地ではないかと思うんですが、そのあたり、立地条件からいって、そういう問い合わせも含めて、先ほどもありましたけども、ほかの市内の団体との兼ね合いもあると思えますけども

そのあたりで立地条件としては最適だとお考えいただいて、これから誘致を図っていくということでもよろしいでしょうか。

○議長（石橋英和君） 教育次長。

○教育次長（坂本安弘君） お答えをいたします。

きのうの11番議員の質問でもお答えをさせていただいたんですけども、この3月にスポーツ推進計画という計画を策定しております。その中でも、せっかく橋本市として持つておる既存の施設を利用して、多くの方々にそれを使っていただくというところで、広報活動等に力を入れていくということが示されております。

実際に、スポーツ推進計画をこれから実施していくわけですが、そういったところも含めて、確かに地の利というのはあると考えておりますので、積極的にスポーツ推進計画の実行ということも含めて検討してまいりたいと思います。

○議長（石橋英和君） 5番 森下君。

○5番（森下伸吾君） ありがとうございます。

検討ということもありまして、実際に誘致活動もしていきたいということで、それはもうそしたら誘致をどんどん進めていきますよということが決まった段階での誘致の進めということでもよろしいでしょうか。それとも、これからするかどうかをもう一回検討すること、どちらになりますでしょうか。

○議長（石橋英和君） 教育次長。

○教育次長（坂本安弘君） 基本的には、誘致活動に積極的に取り組んでいきたいと考えております。

先ほども申しましたように、せっかくのつくったスポーツ推進計画を、本年度からいよいよ計画的に実施していくということになるんですけども、その辺の誘致活動について今年度から具体的に取り組みを進めていき

いということでございます。

○議長（石橋英和君） 5番 森下君。

○5番（森下伸吾君） 今年度から進めていただけるということで、非常にまたありがたいことでもありますし、橋本市のほうにもまた来ていただける方が多くなるということでもあります。

先ほど1番目の質問の中にも、クラブのどれだけ行っていたかということなんですが、そんなにアピールしていない状態で今あると思いますが、その状態でありながら、平成25年であれば、体育館と両方合わせて20団体が橋本市で合宿をやっているということであれば、何もしないのにそれだけ来ていただけているということでしたら、橋本市の施設というのは、やはりそれだけ受け入れられているんじゃないかなと思いますので、しっかりアピールしていただければもっと来ていただけるんじゃないかなと考えます。

その上で、橋本市にどれだけの施設があって、どれだけの宿泊施設もあるのかということで、わからない高校とか大学、団体もあると思いますので、それがわかりやすいように2番目のパンフレットやホームページを充実ということもありまして、質問させていただいたんですが、新潟県柏崎市というまちがありますけども、ここもスポーツ合宿を推進しておりまして、ホームページではスポーツ合宿専用のホームページというのも立ち上げていますし、さらにはそのホームページにパンフレットも公表してまして、それを印刷すればどういう施設があるかというのが一目でわかるということになって、まとまっているんですね。

ですんで、柏崎市でどういう合宿ができるかというのもこれでわかります。今までの実績なども載っておりますので、どういう団体が柏崎市で合宿をやったかということも載って

おります。

こういうのを見れば、それでは自分ところもやろうかな、行こうかなということがわかりますので、こういうこともホームページのほうも刷新というか前向きに検討していただけるということでありましたので、こういうふうなパンフレットのほうも一目でわかるようなものもぜひともつくっていただきたいと思うんですが、この辺は予算との関係もあると思うんですが、この辺の取り組みはいかがでしょうか。

○議長（石橋英和君）教育次長。

○教育次長（坂本安弘君）お答えをいたします。

橋本市の場合は、市内のほとんどのスポーツ施設について、スポーツ振興公社のほうに指定管理であったり、業務委託で管理をお願いしておるところでございまして、橋本市のスポーツ施設の位置ですとかというのは、スポーツ振興公社のホームページに、現在は頼っているのが実情かと思えます。

今後は、先ほどから何回も申しておりますように、スポーツ推進計画にもうたわれておりますし、管理をお願いしておりますスポーツ振興公社とも協議をしながら、そういったところも検討していきたいと考えます。

○議長（石橋英和君）5番 森下君。

○5番（森下伸吾君）ありがとうございます。

こういうところも検討していただける。さらには誘致にも本年度から取り組んでいくということも言っていただきました。前向きなご答弁をいただきましたので、このあたりはぜひとも本年プレ国体もありますし、来年度はもちろん国体もございまして、橋本市はこれだけの施設を持っているんだということもアピールできる上では、絶好の機会ではあると思います。

プレ国体もございまして、本年3月には、

橋本市の体育館でV・チャレンジリーグというバレーボールの大会もございました。2日間あったんですけども、私も見させていただいたんですが、全国から各クラブチームが集まってきておりまして、すごくレベルの高い大会で、全国大会でもありますので、全国大会ができる体育館の施設があるということがこれでもわかるわけなんですけど、そこに来ているクラブの応援団も来ておったんですけど、その方々がほとんどやはり、これはルートインがオープンする前でありましたので、橋本市に泊まらずに、ほかの奈良県や大阪府に泊まっておったということもありますので、これがもしそういうふうな施設が充実すれば、ぜひとも橋本市に泊まっていたいただいていたんじゃないかなとも思いますので、どんどんこういうふうな形の大会も誘致のほうを取り組んでいただければと思いますし、先ほど合宿の日が土日に固まるということもあるとは思いますが、夏休みとか春休みとかであれば、平日の合宿も多いんじゃないかなと思います。

同じように合宿都市宣言をしております愛知県西条市というところは、スポーツの合宿やキャンプなんかを積極的に取り組んでおるんですが、ホームページを見ますと、本年2月と3月だけで14団体のキャンプや合宿が行われているということでもあります。

施設の数とか全く違いますけども、ですんで、2月、3月だけでもそれだけ来られているということでもありますので、しっかりアピールをしていけば、京阪神から近いという地の利を考えても、もっともっと来ていただけるんじゃないかなと思いますので、このあたり、今年度しっかり取り組んでいただいて、国体のほうにしっかりつなげていきたいなと我々も思っておりますので、ぜひともその辺取り組んでいただければと思いますので、ど

うかよろしく申し上げます。

私の一つ目の質問は以上で終わります。

○議長（石橋英和君） 次に、質問項目2、飛び越え石の周辺整備に関する質問に対する答弁を求めます。

経済部長。

〔経済部長（笠原英治君）登壇〕

○経済部長（笠原英治君） 史跡飛び越え石に駐車場などの周辺整備についてお答えします。

隅田町真土にある飛び越え石は、和歌山県と奈良県の県境を流れる落合川を飛び越えるように渡ることができる二つの岩です。およそ1,300年前から多くの人が、都のある大和の国から紀伊の国に、この飛び越え石を渡ってきたであろうと言われており、市内で詠まれた万葉10首のうち8首が真土で詠まれたものです。

いにしえの人々が歩いてきたであろう万葉古道を、同じように歩いて詠まれた歌を情緒豊かに楽しむ万葉ファンも多くいると聞いています。

飛び越え石や万葉歌碑周辺を散策して楽しんでいただくため、橋本市観光協会では、JR隅田駅を起点とした万葉の里ハイキングコースマップを作成するとともに、橋本まち歩きツアーの企画で、市内市外の方に万葉散策を楽しんでいただいています。

現在、飛び越え石周辺については、平成 22年度に市補助金を活用して休憩所とトイレを整備し、地元有志により菜の花や大賀ハスなど四季折々の花を手入れしていただき、観光客へのおもてなしを行っていただいております。

しかし、ご指摘のとおり一帯には観光バスがとめられるような大規模な駐車場がありません。地元からも要望がありますが、その場所は国道に交差点を設置するための協議や盛り土に必要な土砂の確保、さらには工事費の

財源確保も課題となりますので、現実的には難しいと考えております。

今後は、大規模な駐車場の整備ということではなく、小規模であっても周辺の空き地等を利用するなどして、周辺のエリアに点在する市内の観光地を周遊して楽しんでいただける動線づくりを検討してまいりたいと考えております。

○議長（石橋英和君） 5番 森下君、再質問ありますか。

5番 森下君。

○5番（森下伸吾君） ありがとうございます。

それでは、飛び越え石周辺の駐車場ですが検討いただいたのはちょうど先ほどありました休憩所の近くの場所のところに駐車場をつくるという考えか、それとも、もう国道沿いの場所なのか。そのあたり、どちらでご検討いただいたのかなと思うんですが、その辺、いかがでしょうか。

○議長（石橋英和君） 経済部長。

○経済部長（笠原英治君） この件に関しましては、前年度から地元の要望を受けて再々現場のほうも確認しておるわけなんですけど、地元の要望としましては、トイレ、休憩所のあるちょうど水田の真ん中のあたりなんですけど、その部分に駐車場を設けたということでしたので、その位置で検討しております。

○議長（石橋英和君） 5番 森下君。

○5番（森下伸吾君） だいたいの建築費的なこと、あとはその建築方法、法律的なことそういうところでいろいろと難関といいますかハードルが高いのかなと思うんですが、そのあたりはいかがでしょうか。

○議長（石橋英和君） 経済部長。

○経済部長（笠原英治君） 要望されておる場所が非常に困難であるという理由につきましては、まず国道からの進入路を確保するにあたって、国土交通省との交差点協議が非常に

複雑になってこようかと思えます。あの場所は、西からも東からも両方傾坂のある道路で奈良県側からはちょうどカーブもあります。そういう状況の中で、ちょうど谷にあたる場所に右折帯をつくらずに観光バスがとまっておると、非常に事故等の発生が高いと思われれます。

そういう状況から予測されますことは、右折帯を必ずつくれということは言われると思えます。それと、現状は農地ですので、農業委員会のほうで、それを最低雑種地に変更していく許可が必要になってまいります。それと、盛り土が非常に必要になってまいりまして、地元の方は国道 371 号のトンネルの掘削土を埋めてくれたらいいのにとのお話もあったんですが、非常にその工程、スケジュールからしましても、かなり先になってまいろうかと思えますので、そういった土砂の確保も非常に難しいと思えます。

それと、あと近くに大きな水路もありますし、その水路をまたいで道路、駐車場を建設するようになってこようかと思えますので、非常に大きな投資額が必要になってまいります。

そういったこともろもろを含めて、非常に今の状況の中では困難と考えております。

○議長（石橋英和君） 5 番 森下君。

○5 番（森下伸吾君） 大きな投資額が必要であるということであれば、私も質問の中ではバスという言葉も出しましたが、バスではなしに乗用車が、国道沿いすぐに数台とめられるような場所の駐車場をつくるという形でも、投資額といいますか建設費用というのは結構かかるものなのでしょうか。それでもつくるには、なかなか困難ということでありませうでしょうか。

○議長（石橋英和君） 経済部長。

○経済部長（笠原英治君） 1 回目の答弁でも

お答えさせていただいたのですが、この万葉の里真土の場所というのはハイキングコースになっておりまして、決して近くまで観光バスや乗用車ですぐそこまで行って、飛び越え石を見るところではないと、私は認識しております。

議員のほうからもお話がありました周辺の八幡神社であったり、利生護国寺、磨崖仏といったところを散策しながら楽しんでいただく。実際、観光案内所でも、先日、そういうまち歩きツアーをしまして、私も参加してきましたんですけど、非常に好評でした。

そういう散策を兼ねた観光整備ということから考えますと、近くに駐車場がなくてもいんではないかと考えております。少し離れたところで乗用車なりがとめられるようなスペースがあれば、そういったところを整備することによって十分可能であるように、私は考えております。

○議長（石橋英和君） 5 番 森下君。

○5 番（森下伸吾君） あの場所でだめなら、ほかの場所での検討をどうかということでありませうけども、そしてほかの場所、代替地で整備できるような場所を探すとすれば、そうするとやはり商工観光課の方々の人員だけで探していただけるということによろしいんでしょうか。

今考えますと、やはり商工観光課の人員だけではいっぱいいっぱいではないのかなと思うんです。果たしてそこまで手が回るのかなと考えますが、そのあたりはいかがでしょうか。

○議長（石橋英和君） 経済部長。

○経済部長（笠原英治君） 今、観光に関して市民の方が非常に興味を持たれておりましてそれぞれの地域で積極的な観光資源の開発に努めていただいております。それぞれの地域から、観光トイレであったり駐車場の整備、

たくさん要望をいただいておりますが、その中で、私どもだけでそういった場所を確認して決定していくというのは、なかなか非常に難しいかと思えます。

そういう中で、できれば地元の方のほうからそういうご意見をいただいて、可能であるかどうかということについて、積極的な地元協力が得られれば、非常にスムーズに進むのではないかと考えております。

○議長（石橋英和君） 5番 森下君。

○5番（森下伸吾君） それでは、地元からそういうふうな情報があれば、積極的にそこも検討していきたいということで、あのあたりとしては、まずは駐車場をつくることに関しては、市としては別段反対ではないといえますか、やはり必要であるという考え方でよろしいのでしょうか。

○議長（石橋英和君） 経済部長。

○経済部長（笠原英治君） 基本的に投資額が少ないということが条件になってこようかと思えます。それと、駐車場の場所を、民地であれば賃料をお支払いしてお借りすることは、なかなか難しいかと思えます。そういった部分も含めて地元の協力をお願いできるのであれば、整備は進むと私は考えております。

○議長（石橋英和君） 5番 森下君。

○5番（森下伸吾君） それでは、例えば地元からこの土地は無償提供しますよと、ただ整備してくださいよというような土地があればぜひとも市としても取り組んでいただけないかというご答弁にはなったかなと思えますので、その辺、市長、副市長、ぜひともお願いをしたいと思えます。

先ほども部長からありましたように、あの地域というというのは、すごく歴史的な史跡がたくさん集まっているところやなど、私も改めて見させていただきました。先ほど言い

ましたように、飛び越え石というのは、高野山は1,200年ですが、あそこは1,300年の歴史があると言われております。万葉にうたわれた和歌が、あそこには8首あるということでもありまして、さらには、先ほど言いましたように、落合磨崖仏といって、こんなところにこんなものがあるんだというすごく神秘的なものが800年の歴史があると言われるものも残っております。

さらに、先ほど言いましたように、隅田八幡神社、人物画像鏡ですわね。社会の教科書にも出てくるという場所です。さらには、丸高稲荷神社もあれば、ちょっと足を伸ばせば利生護国寺もあって、中将姫の旧跡もあって飛び越え石だけじゃなしにあの周辺のエリアだけを考えてもすごく観光地としてのポテンシャルは高いと思えますので、一帯を考えた観光的な人を集めるようなビジョンというのは、市としてお持ちでしょうか。その辺はいかがでしょうか。

○議長（石橋英和君） 経済部長。

○経済部長（笠原英治君） 橋本市の観光資源というのは、全国的にも知名度の高いというのはなかなか少ないと思えます。そういう中で、点在していろいろあるものを、点と点を線で結んで、さらには面にして、観光資源としていくことが必要やと考えております。そういう観光整備計画というのは、当然必要になってこようかと思えます。

○議長（石橋英和君） 5番 森下君。

○5番（森下伸吾君） ですんで、今どちらかという、訪れていただける方は点で訪れていただいているのかなと私も思います。ですんで、できればあのあたりのエリアを、先ほど言ったように、1箇所を置いて、ハイキングコースですと回っていただけるような周遊コースみたいなしっかりと観光エリアという形で、市としてもこれだけの部分があ

りますんで、こうやっていきたいということで、ぜひとも市長主導でこのエリアをしっかり売り出していくんだということでやっていただければと考えております。

これにあたって、私もいろいろ資料を集めてみたんですが、飛び越え石の近くに、先ほど言いましたように、休憩所があります。そこに、万葉歌碑飛び越え石散策者記名帳という、いわゆる帳面みたいなものを置いていまして、そこに名前と住所を書いていただくようなものを置いてあるんですね。もちろん、これに書いていただけるかどうかは自由なので、実際にこれだけの方が、これに書いていただいた以上に来ていただけているとは思いますが、2011年11月から2014年5月まで2年6カ月の間に、ここに記帳していただいた方は748人おります。1カ月換算しますと25人という形になりますが、もちろんこれは書いていただいた方ですので、それ以上の方がここには来ているということになります。

住所も書いていただいていますんで、これを見るとすごく興味深いんですが、和歌山県内の来ていただいた方が528人、次いで大阪府が108人、奈良県28人と、兵庫県、京都府と続いておりますが、県外が220人で、合計が748人ということであるんですが、県外の中でも、住所の中で見ていますと、徳島県徳島市とか神奈川県横浜市、鹿児島県鹿児島市、島根県益田市、岡山県倉敷市、福井県越前市、新潟県新潟市という形で、これを見ただけでも、本当に全国からこの地域に来ていただいているんだなと考えます。

ですんで、これだけ全国に知られているのに、我々がなかなか知っている方もいないということではあるんですが、観光の立場からなぜこれだけ全国の方にここは知られているんだなと分析されていますでしょうか。

○議長（石橋英和君） 経済部長。

○経済部長（笠原英治君） 全国的に万葉のファンというのは非常に多ございまして、和歌山県の東の起点橋本市の真土から和歌山市の和歌浦まで、万葉コースとして二、三日がかりで歩いて2泊3日のパッケージ旅行としてエージェントで組まれておるツアーもございます。

和歌山県が推奨して、そういったホームページ等で紹介している事情もあるんですが、今年デスティネーションキャンペーン、去年はプレのDCキャンペーンをやって、その中で非常にこの万葉ウオークというのをPRさせていただいております。そういう意味から、全国JR6社によって啓発されたのではないかと、それと、さらに和歌山県のそういったPRが功を奏しておるのではないかと分析しております。

○議長（石橋英和君） 5番 森下君。

○5番（森下伸吾君） ありがとうございます。

そうですね、リストを見せていただきますと、和泉市万葉の会とか万葉の大和路を歩く会とかそういった会の方もたくさん来られております。ですんで、万葉集の詠まれたところを歩くという趣味を持たれた方が、すごくたくさんいらっしゃるんだなとも思いますしあの周辺をこよなく愛した、ご存じやと思いますけど、万葉学者の犬養孝大阪大学の名誉教授がいらっしゃいました。その方というのは、万葉集研究者の第一人者でありまして、多くの万葉ファンから親しまれていたということでもあります。犬養先生が、この地に立って、子々孫々伝えたい万葉の国宝だと絶賛したと、橋本新聞に書かれておりました。

ですんで、その後、1993年第1回万葉まつりを開催して、何とあそこに市民の方200人が参加したと。飛び越え石周辺は絶対に開発させないんだという地元の方の意気込みがあって、今の場所があるということでもあります。

ですんで、すごく歴史あるところでもありますし、我々も知らないことがたくさんあります。ですんで、こういった史跡というか歴史のすごく重要なものを、我々もしっかり守っていかなあかなとも考えさせていただきました。

ご参考までと言いますか、一つお話をさせていただきたいと思うのが、兵庫県豊岡市の出石町というところがあります。出る石と書くんですが、兵庫県の北部にあるんですけども、京阪神から城崎温泉に行く通里道のまちであります。特に夏は海水浴場に行く、冬はスキー客の通里道ということもありますが、ほとんど観光客が素通りやっただと。しかしながら、今は20年間たって、約100万人の観光客が訪れるまでになったということでもあります。

今まで素通りだったまちが、100万人が訪れるまちになったと。そのきっかけになったのが、ご存じかと思います。私も食べたことがあるんですが、出石そばというそばであります。これだけでは、もちろんないんです。もともと城下町でしたから、すごく町並みもきれいですし、来ていただくこともあるんですが、なぜこの話をしたかと言いますと、やはり橋本市も京阪神から高野山への通里道であります。今までどちらかという素通りされている部分が多いんじゃないかと思っておりますので、私はどちらかという橋本市にそういった目玉、だからそばをつくれというわけじゃないんですけども、そういった目玉をしっかりとほり起こしていくことが大事じゃないかなと思っております。

新しいものをつくるよりも、これからはそこにある資源をしっかりとほり起こしていくということです。この出石そばの店というのは昭和40年代には5軒しかなかった。私も言ったことがあるんですが、いっぱいあるし、今

50軒ぐらいあると言われていたんですが、昔は5軒しかなかった。それが、地域の方々がこの出石そばをしっかりと全国に広めようといっただアピールした中で、50軒まで増えて、さらにはそこでの従業員が200人、まあいけばこれが一つの雇用対策になっているということでもあります。さらに観光客が100万人ということでもありますので、しっかりと今埋もれて我々が気づかないようなものを磨き上げブラッシュアップしていくということも、これから大事じゃないかと。

そういう意味では、新しいこういった考えと言いますか、新しい魅力を発見していただけるような若い世代のそういう力も借りないといけないと思うんですが、ちょうど今HMP48、橋本まちづくりプロジェクトでは、魅力発掘ということでも力を入れていただいているということなので、こういうところをしっかりと橋本市の魅力を発掘していただいていると思うんですが、この辺のことにHMP48もかかわっていただければと思うんですが、その辺はいかがでしょうか。

○議長（石橋英和君）企画経営室長。

○企画経営室長（上田力也君）お答えします。

今のHMP48のほうで、昨年度から3年間の期間を限定して、このプロジェクトを行っております。その中の四つの柱があるんですけども、その中の一つに、魅力の発掘という柱がございます。これは、この柱に基づいて今年も引き続いてそういう地域資源のほり起こしということに、新しい若い職員の発想で取り組んでいるところでございます。

引き続き今年度、そして来年度においてもそういったところを発掘といいますか、研究いたしまして、引き続き情報発信をしていきたいと考えております。

○議長（石橋英和君）5番 森下君。

○5番（森下伸吾君）ありがとうございます。

ちょっと質問とは内容が違うかも知れませんが、発掘という意味で、地域が観光客を呼ぶという意味で、飛び越え石周辺の観光エリアにはやはり駐車場がなければ来ていただけないとも思います。先ほど言うた出石町も実は鉄道が通っていないまちであります。全てみんなが車で来る場所です。ですんで、ここに来て散策をするというまちでもありますので、やはり駐車場というのは、今の時代、必ず必要になってくるのかなと思いますんで先ほどおっしゃったように、予定している地元が言っている場所がだめであれば、ほかの場所ですっきりと見つけていただけるのであれば、そちらの方向ですっきり見つけていただきたいですし、さらに地元の埋もれているものをブラッシュアップ、ほり起こしていただいて、100万人に訪れていただけるような橋本市にぜひとも我々も取り組んでいきたいなと思いますので、どうかよろしく申し上げます。

二つ目は以上で終わります。

○議長（石橋英和君） 次に、質問項目3、ふるさと納税の取り組みに関する質問に対する答弁を求めます。

市長。

〔市長（平木哲朗君）登壇〕

○市長（平木哲朗君） ふるさと納税の取り組みについてお答えをします。

人口減少及び歳入の減少は主要な課題と考え、長期総合計画後期基本計画においても、それらの主要課題に対応する施策を講じることとしています。

その中で、持続可能なまちをめざした行政体力向上施策のうち、歳入の維持・確保のための一つとして、ふるさと納税の活性化を位置づけています。

また、私の公約としても、歳入の確保の観点から、その制度の拡充と増収を挙げていま

す。

今後の取り組みについてですが、ふるさと納税制度は、ふるさとに貢献したい、ふるさとを応援したいという納税者の思いを実現するために創設されました。現在の過熱気味と思える状況は、制度の趣旨に沿ったものではないと考えますが、その一方で、橋本市の特産品をPRする好機でもあり、地域の活性化に資するものと考えます。

私が今後取り組む六つの重点政策に、地場産業の振興と地域経済の活性化を挙げておりチーム橋本として民間・行政が一体となって橋本市を全国へ、海外へ売り出していくための一つの手法として、このふるさと納税の制度の活用は有効であると考えます。

今後、平成27年4月に結成を予定しているチーム橋本により、費用対効果も精査しつつ具体的な取り組みを行っていきますので、ご理解をお願いします。

○議長（石橋英和君） 5番 森下君、再質問ありますか。

5番 森下君。

○5番（森下伸吾君） 市長、ありがとうございます。

具体的な取り組みをやっていただけるということですので、あえて言うことはないんですが、私も本年3月議会で一般質問させていただいたんですが、改めて平木新市長になられて、市のかじ取りをされるということもありましたんで、最初の質問という意味で質問をさせていただきました。

前回の質問の後、ホームページでは早速ふるさと納税のページに、贈呈品となる柿とパイル織物の写真を入れていただきました。その辺はありがたいと思うんですが、先ほど市長が言われたように、ふるさと納税を税収入の増加だけと考えるのか、それとも地域活性化の一つと捉えるのか。その辺で、やはり取

り組みが違うと思います。

例えばこれも新聞に載っておった記事なんです、和歌山県田辺市も寄附が急増しているということでもあります。というのも、4月から市外在住の1万円以上の寄附者に梅干しを贈る制度を始めたんですね。5月8日現在92件になっているということでもあります。昨年が36件でした。ですんで、もう既に96件になっている。すごく大きな効果であると言っております。本年は1,000件を目標にやりますと書いておりました。

そこにも書いてあるんですが、税収としては限定的ですけども、宣伝効果は絶大であると。近所にお裾分けをしてもらうことで、PR効果はさらに広がるということでもあります。

ですんで、橋本市としての特産品、農産品のPRということで考えれば、先ほど市長が言われたように、とても有効的な手法であるんじゃないかなと思います。

今、前回経済部長にもお聞きしていたんですが、市の農産物や特産品にかかるPRの費用、広告費というのは、今現在市としてはどれぐらいの規模になっておるのでしょうか。

○議長（石橋英和君）経済部長。

○経済部長（笠原英治君）多くのイベント、展示会等で地場産品のPRをしておりますので、総額幾らかというご質問に対してはなかなか具体的な数字はお答えにくいんですが、かなり私のところの経済部の商工観光課の仕事の中で、その部分に3分の1以上は投入しておると思います。そういった人件費も含めて相当な額とお答えさせていただきたいと思っております。

○議長（石橋英和君）5番 森下君。

○5番（森下伸吾君）ありがとうございます。

すいません。3分の1の費用、ごめんなさい、人員でしたか。

○議長（石橋英和君）経済部長。

○経済部長（笠原英治君）商工観光課が取り扱っている事業の3分の1は、その部門に投入しておると考えております。

○議長（石橋英和君）5番 森下君。

○5番（森下伸吾君）ありがとうございます。

観光にかかる費用というのは、大変厳しいものがあると思います。ほかの財政状況を考えまして、そちらのほうに回る財政というのは限定的であると思いますし、そんなに多くないと思います。その中の3分の1が、そちらに費やされているということでもありますが、ここをふるさと納税に入ってきた納税額で、寄附金でその部分を賄えたら、これほどすばらしいものではないかなと思います。

今現在、農産品や特産品を全国に売り出すための施策を今までいろいろやっていただいておりますが、新しいこういうことを今考えているんやということが、もしあれば教えていただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（石橋英和君）経済部長。

○経済部長（笠原英治君）先ほどふるさと納税の話があったんですが、全国で1,800以上の自治体が、本来の郷土を支援するという目的からちょっと逸脱しておるかもわからないんですけど、1万円の寄附をいただければ何か産品をお渡しするという自治体が増えております。

これは、自治体のメリットとしては、議員ご指摘のように、歳入が増えるということだけではなく、同時に地場産品や観光資源をPRできることにあるかなと思います。

現在、ふるさと納税を1万円以上いただいた方に対しては、先ほどお話がありましたパイル織物と紀州のへら竿の技術を使ったボールペンをお渡ししております。全ての方にお渡ししておるのではないんですが、数も限られておりますので、できるだけ要望に応じて

おります。

それと、具体的な産品PRについて、地場産業のPRについてですが、実は商工会連合会が、この夏8月から東京駅の八重洲口のほうにアンテナショップをオープンします。既に和歌山県が紀州館というアンテナショップをもう設置して随分たつわけなんですけど、今度は商工会連合会が中心になって八重洲口につくるアンテナショップについては、各市町村の伝統産業も含めた産品を大々的にPRしていただけることになっております。

私ども、8月のオープンには行けないんですけど、8月中には伝統産品をもって首都圏中心にPR活動を進めていきたいと考えております。

○議長（石橋英和君）5番 森下君。

○5番（森下伸吾君）ありがとうございます。

そういった新しいPRもございます。ただやはりその場所に行ってPRするとすると、なかなか職員の方の負担も大きいし、それだけの費用もかかるということでもありますのでそういった面も考えますと、やはりふるさと納税で特産物、農産物を贈らせていただいてそれを実際に食べていただいたり、使っていただいて、橋本市のよさをわかっていただくというほうがすごく効果的ではないかなと思います。

特に、きょうは一つ見本を持たせていただいたんですが、鳥取県にあります米子市というところは、3,000円以上を送るとこういうふうなパックが贈られてきます。この中にはいろんな特産品が載っているんですが、地元企業協賛グッズの詰め合わせになっています。この中に入っています、13企業ぐらいのものが入っています。ここにも米子市民パックと書いていますし、ここにトリアスロン発祥の地と書いていますので、ここにスポーツ合宿橋本市と書いていただいたら一番いいな

と思いつつも見ておったんですが、中身を見ますと、いろんなものが載ってまして、その中で、私はすごくいいなと思ったのは、各施設の中に入れる入場無料券とか、あとはそのお店に行ったらこれだけ割引ますよという割引券なんかも入ってたりします。ですんで、そこへ行けばそういうものがあつたりしますし、あとは米子市はこういうふうなネギのマスコットがありますので、こういうふうなアピールをはしぼうでやっていただいたらと思いますし、お水とかお茶とかどら焼きとかが入っていますが、こういうのを全てここに書いてありますように企業協賛グッズということですので、多分これは協賛していただいているんじゃないかなと思います。

ですんで、こういった形でこれが贈られてくれば、全てこれをいっぺん食べてみようかなと思って、よければピーターになっていただけるということもありますので、これですごくお手ごろですし、いろんなものが入っているなと思ったんです。

ですんで、橋本市でも先ほど柿とパイル織物、そのままどんと送られて、柿がいっぱい送られてきても困るよと、2人なのにとということもあると思いますので、もしもできるのであれば、こういうふうなパックで送っていただきけたら、こういうことも考えていただいたらと思うんですが、私が考えるとしましたら、恋野のマッシュルームカレーとあとはひねキングカレー、柿でつくるんだったら柿渋石鹸、高野口のパイル織物であれば、今女性用の化粧品のパフ、パイル織物を使ってつくとすごく肌の乗りがいいということで、市民生活部長、されたことございますか。あのパフはすごくいいそうなんです。あれを使うと、ほかのものが使えないということになりますので、ぜひとも使っていただければと思うんです。あとはハタゴンボのお茶もあり

ます。

ですんで、そういうのを全部パックにしてください渡せば、これほど橋本市のPRができるものはないんじゃないかなと。ですんで、こういう発想もぜひともHMP 48でやっていただければと思います。

この辺、私が今言うただけでも、まあ言うたらこれだけのものができるわけですから、橋本市やったら柿、パイル織物だけで終わらんじゃなしに、こういうパックでやっていただくというのも一つの手じゃないかなと思います。

ですんで、先ほどからふるさと納税の趣旨とは少し外れるかもわからないということもありましたけども、市長が言っていたように、地域活性化の一つの手法でもあると思います。効果的なシステムであると思います。

ちょうど副市長が就任のときに、なせば成る、なさねば成らぬ何事もという良い言葉を言っていました。やればできると、やらなければ何もできない、何事もということですんで、ぜひともやっていただいて、PR

をしていただいてもと思います。

あれは上杉鷹山の言葉ですので、上杉鷹山は江戸時代の米沢藩を立て直した名君と言われる方ですけども、あの方がやられたことで二つありまして、徹底的に削減、質素にやったということと、もう一つは産業でかけるところにはお金をかけたと。それによって米沢織とかニシキゴイを飼ってそれを全国に売ったとかという形で、地元経済を潤したということで、見事財政を立て直したという方でありますので、私も好きな政治家の一人であると思うんですが、そういったことも副市長に言っていたので、すごく心強いなと思いましたので、ぜひとも市長、副市長のタッグを組んでいただいて、このあたりは橋本市の魅力を存分に発揮していただけるよう期待しまして、私の一般質問は終わります。ありがとうございます。

○議長（石橋英和君） 5番 森下君の一般質問は終わりました。

この際、午後1時まで休憩いたします。

（午前11時56分 休憩）